

資料 4

東海大学

提供資料

東海大学 飛行訓練センター

平成26年1月29日

東海大学 工学部 航空宇宙学科 航空操縦学専攻

1.現状

(1) 定員と入学者数

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
定員	40	50	←	←	←	←	←	←
入学者数	40	42	40	52	32	34	36	37

(2) 飛行訓練状況

期(学年)	人数	課程
6-2期(3年生)	12名	JCAB 事業用 または計器飛行 課程
7-1期(2年生)	22名	FAA 事業用 および 計器飛行 課程
7-2期(2年生)	12名	FAA 単発 自家用課程

1.現状 (続き)

(3) 就職実績 (2013年度卒業予定者までの合計)

卒業年度	修了数	就職数	就職者数の航空会社毎内訳																	
			JAL G					ANA G			SKY	SNA	ADO	SFJ	IBEX	APJ	WAJ	FDA	ORC	AMX
			JTA	J-AIR	JAC	RAC	ANA	AKX												
計	176	138	11	2	4	3	2	50	34	16	21	13	2	7	8	14	5	3	3	1

注:就職者数は2013年12月までの内定者を含む

2. 課題

(1) 学生の金銭的な負担の軽減

- ・学費が高く、親の負担が大きい

留学先での訓練費	約810万円
学士取得等関係(4年間)	約720万円
合計	約1530万円

(参考) 奨学金

名称	方式	金額(万円)	条件等
航空操縦学専攻留学奨学金	給付	150	全員
学部奨学金	給付	25	審査選考
東海大・ANA奨学金(2012年入学者で終了)	貸与	500	審査選考
日本学生支援機構奨学金	貸与	3~6/月	審査選考

2. 課題 (続き)

(2) 入学志願者数の増大

- ・より良い卒業生を多く出すために志願者増が必要
- ・広報活動は行っているが、高い学費がマイナスに作用

(3) エアラインでの操縦士訓練の経験者の教員の確保

- ・エアラインパイロットを目指す上で、その操縦訓練経験者の教員が必須だが、人材が潤沢でない

(4) 飛行学科教育の教材の維持管理

- ・法規等の改正の教材への反映作業量が多い

3. 要望事項

(1) 学費の負担の軽減

学費(留学訓練費含む)について国による補助給付や貸付を充実して欲しい

- ・現状

学生の負担と、学内と一般の奨学金の活用に頼っている

- ・効果

金銭的負担の軽減で志願者を多くし、より質が高く、より多い操縦士を養成できる

(参考) 諸外国の状況 (大学のパイロットコースを含む状況)

- ・米国では連邦、州政府の給付や貸与奨学金が充実している
- ・オーストラリアでは学費をカバーする利息実質0等の奨学金がある

3. 要望事項 (続き)

(2) 技能審査員の航空身体検査証明の要件の廃止

後席で技能審査を行う技能審査員について航空身体検査証明の要件を免除して欲しい

- ・現状

日本人技能審査員は技能審査の際には後席で技能審査を行うが、航空身体検査証明の保有が義務付けられている

- ・効果

今後一層厳しくなることが予想される技能審査員の確保がしやすくなり、安定的に操縦士の養成ができる

(参考)

模擬飛行装置で技能審査を行う技能審査員は既に航空身体検査証明が免除されている

3. 要望事項 (続き)

(3) 航空無線通信士の資格試験の緩和

試験を免除し書類申請のみで資格を取得できるようにしてほしい
もしくは試験内容を操縦士業務に適合したものに變更し、併せて
試験の実施回数を増やしてほしい

・現状

法で通信者また無線設備の設置調整の技術者に当該資格が義務付けられているが、試験内容は無線や装置の原理、設備の維持管理規則のように、操縦士に無関係なものが多く含まれている。

管制機関との無線は操縦士の資格試験で担保されている

・効果

・訓練生の負担の軽減

(参考)

米国内で飛行する米国の操縦士は航空無線通信士の資格が不要。資格証を取得したい場合は試験が免除